

佐用町立学校の在り方に関する基礎資料

—適正規模・適正配置検討のための現状分析—

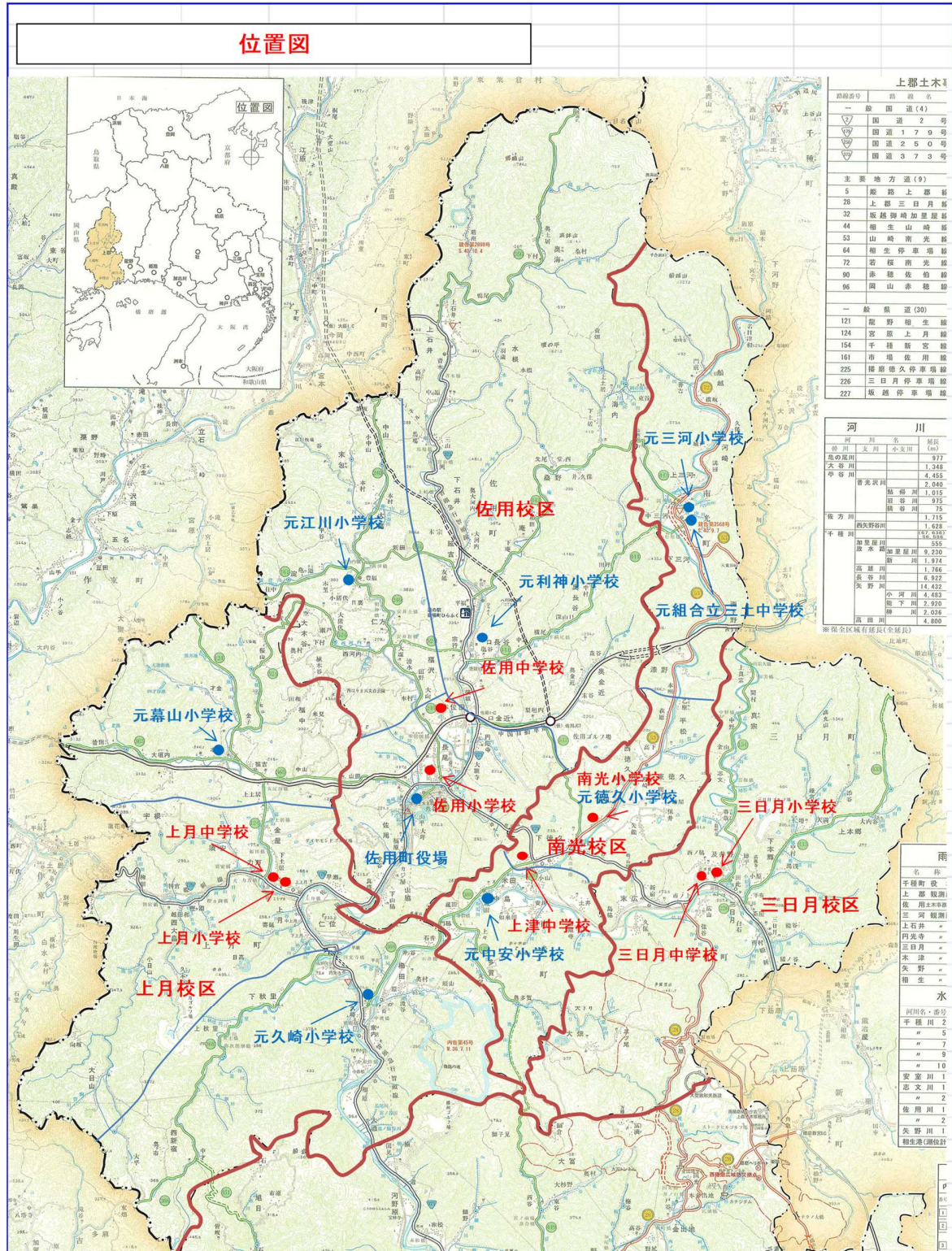
※ 本資料は、佐用町立学校の在り方検討委員会より提出された「答申書」の主要項目を抜粋・編集したものである。

令和8年3月16日

佐用町教育委員会

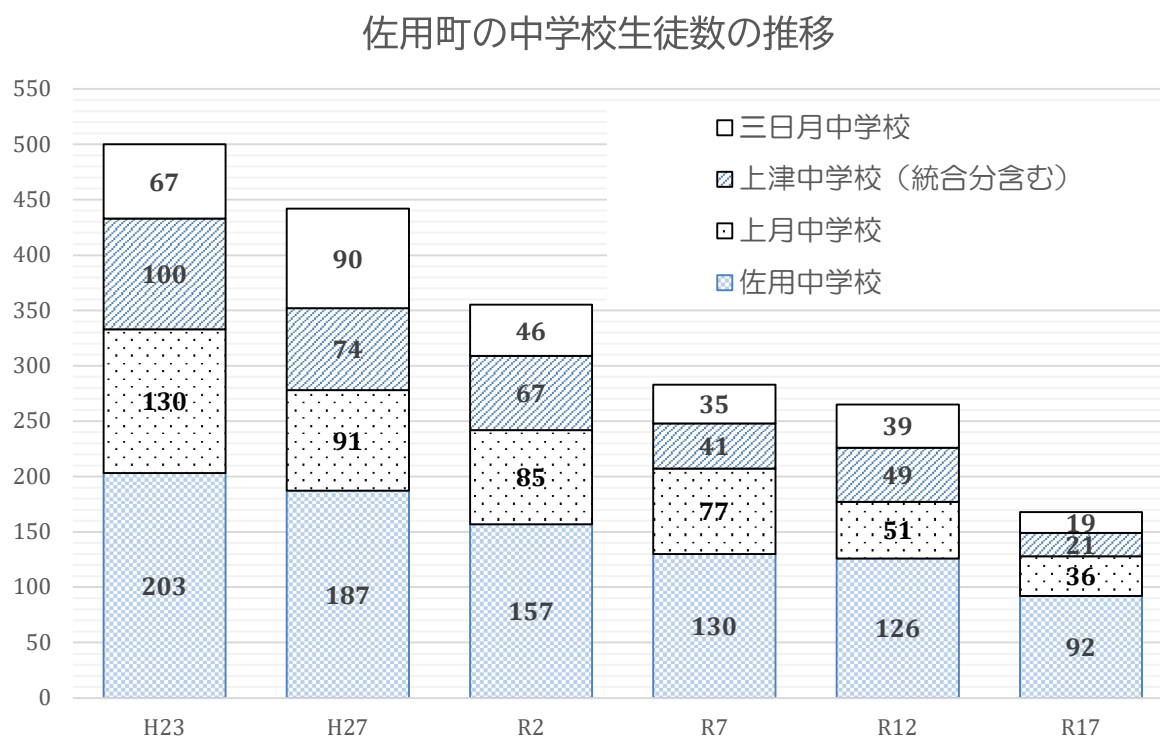
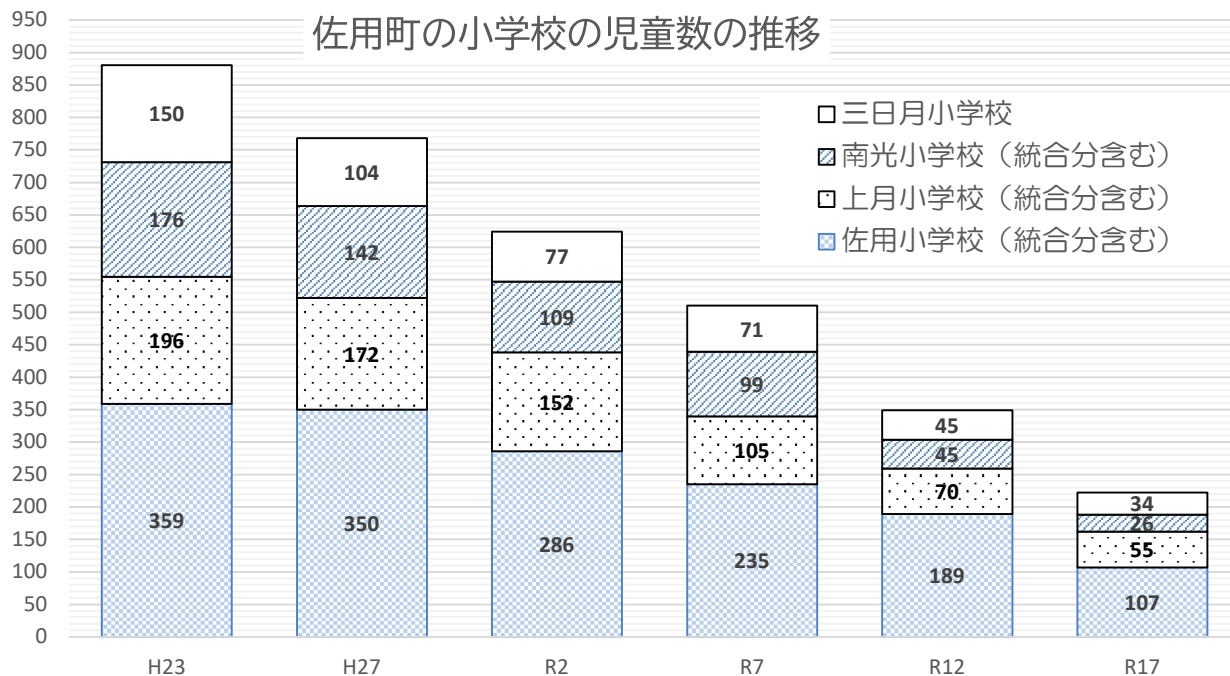
小中学校の位置及び通学区域図について

小中学校区は、佐用小学区・上月小学区・南光小学区・三日月小学区の4つの学区に分けられます。スクールバス通学については、小学校については各小学校を中心に小学校からおおむね3 km以上の距離にある集落の児童を、中学校については各中学校からおおむね7 km以上の距離にある集落の生徒を対象としている。



(2) 児童生徒数の推移

児童生徒数及び学級数の状況を見ると、小・中学校の児童生徒数は、長期的に減少傾向が続いており、H23年度データとR7年度の比較では、小学校で約57%、中学校で約56%にまで減少してきています。



(3) 児童生徒数の将来推移

小・中学校の児童生徒数は、出生数の減少による影響により年々減少しており、今後も更に減少が見込まれます。出生者数から算出した入学予定者及び学年別推移予測は、以下の表のように推移することが予測されます。

○小学校入学予定者数（出生数から算定）

	R7(実数)	R8	R9	R10	R11	R12	R13
佐用小学校	30	35	32	32	28	32	15
上月小学校	15	9	15	13	8	10	9
南光小学校	11	7	10	3	8	6	4
三日月小学校	11	11	8	6	5	4	6
合計	67	62	65	54	49	52	34

○令和7年度以降 小学校 学年別児童数推移予測

		1年後		2年後		3年後		4年後		5年後		6年後																														
		<ul style="list-style-type: none"> ● 令和7年4月1日現在の住所地域の学校に入学した場合の予測 ● 令和6年度生まれの子どもが、小学校1年生になるまでを掲載 ● 網掛け ……1学年10人未満の学年 ● ……複式学級対象学年 兵庫県基準：①1年生を含む場合は連続する2学年で8人以下。 ②2年生以上は連続する2学年で14人以下。 ③3学年が関係する場合は選択制。 																																								
佐用小 (S58.9築) 築42年	R7 (2025)	R8 (2026)		R9 (2027)		R10 (2028)		R11 (2029)		R12 (2030)		R13 (2031)																														
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
	30	42	45	39	37	42	35	30	42	45	39	37	32	35	30	42	45	39	32	32	35	30	42	28	32	32	35	30	42	32	28	32	32	35	30	15	32	28	32	32	35	
		235		228		223		216		199		189		174																												
上月小 (S56.2築) 築44年	R7 (2025)	R8 (2026)		R9 (2027)		R10 (2028)		R11 (2029)		R12 (2030)		R13 (2031)																														
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
	15	15	20	16	15	24	9	15	15	20	16	15	15	9	15	15	20	13	15	9	15	15	20	8	13	15	9	15	10	8	13	15	9	15	9	10	8	13	15	9		
		105		90		90		87		75		70		64																												
南光小 (H3.8築) 築34年	R7 (2025)	R8 (2026)		R9 (2027)		R10 (2028)		R11 (2029)		R12 (2030)		R13 (2031)																														
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6						
	11	17	16	16	23	16	7	11	17	16	16	23	10	7	11	17	16	16	3	10	7	11	17	16	8	3	10	7	11	17	6	8	3	10	7	11	4	6	8	3	10	7
		99		90		77		64		56		45		38																												
三日月小 (S41.8築) 築59年	R7 (2025)	R8 (2026)		R9 (2027)		R10 (2028)		R11 (2029)		R12 (2030)		R13 (2031)																														
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6						
	11	7	12	20	13	8	11	11	7	12	20	13	8	11	11	7	12	20	6	8	11	11	7	12	5	6	8	11	11	7	4	5	6	8	11	11	6	4	5	6	8	11
		71		74		69		55		48		45		40																												
合計	R7 (2025)	R8 (2026)		R9 (2027)		R10 (2028)		R11 (2029)		R12 (2030)		R13 (2031)																														
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6						
	67	81	93	91	88	90	62	67	81	93	91	88	65	62	67	81	93	91	54	65	62	67	81	93	49	54	65	62	67	81	52	49	54	65	62	67	34	52	49	54	65	62
		510		482		459		422		378		316																														

○中学校入学予定者数（小学校在籍児童数より）

	R7(実数)	R9	R11	R13	R15	R17	R19
佐用中学校	36	37	45	30	32	28	15
上月中学校	23	15	20	15	15	8	9
上津中学校	10	23	16	11	10	8	4
三日月中学校	14	13	12	11	8	5	6
合計	83	88	93	67	65	49	34

○令和7年度以降 中学校 学年別生徒数推移予測

		<ul style="list-style-type: none"> ● 令和7年4月1日現在の住所地域の学校に入学した場合の予測 ● 令和6年度生まれの子どもが、中学校1年生になるまでを掲載 ● 網掛け ……1学年10人未満の学年 																																									
		1年後			2年後			3年後			4年後			5年後			6年後			7年後			8年後			9年後			10年後			11年後			12年後								
		R7			R8			R9			R10			R11			R12			R13			R14			R15			R16			R17			R18			R19					
佐用中 (S50.3築) 築50年	1年 2年 3年	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
		36	53	41	42	36	53	37	42	36	39	37	42	45	39	37	42	45	39	30	42	45	35	30	42	32	35	30	32	32	35	28	32	32	32	28	32	15	32	28			
		130	131	115	118	121	126	117	107	97	99	92	92	75																													
上月中 (H17.1築) 築20年	1年 2年 3年	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
		23	28	26	24	23	28	15	24	23	16	15	24	20	16	15	15	20	16	15	15	20	9	15	15	15	9	15	13	15	9	8	13	15	10	8	13	9	10	8			
		77	75	62	55	51	51	50	39	39	37	36	31	27																													
上津中 (S49.3築) 築51年	1年 2年 3年	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
		10	20	11	16	10	20	23	16	10	16	23	16	16	16	23	17	16	16	11	17	16	7	11	17	10	7	11	3	10	7	8	3	10	6	8	3	4	6	8			
		41	46	49	55	55	49	44	35	28	20	21	17	18																													
三日月中 (S52.5築) 築48年	1年 2年 3年	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
		14	9	12	8	14	9	13	8	14	20	13	8	12	20	13	7	12	20	11	7	12	11	11	7	8	11	11	6	8	11	5	6	8	4	5	6	6	4	5			
		35	31	35	41	45	39	30	29	30	25	19	15	15																													
合計	1年 2年 3年	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
		83	110	90	90	83	110	88	90	83	91	88	90	93	91	88	81	93	91	67	81	93	62	67	81	65	62	67	54	65	62	49	54	65	52	49	54	34	52	49			
		283	283	261	269	272	265	241	210	194	181	168	155	135																													

2. 学校の適正規模・適正配置の考え方について

(1) 適正規模・適正配置が求められる背景

- 少子化の急速な進行 ○共働き家庭やひとり親家庭の増加 ○地域コミュニティの衰退
- 個別最適な学びと協働的な学びへの対応 ○学校施設の老朽化 ○生活圏の変化
- 学校プール等の施設管理に関する教職員の負担

(2) 適正規模

○適正規模とは

児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて思考力や表現力、判断力、問題解決能力などを育み、社会性や規範意識を身につけていくための学校環境の目安であり、1校あたりの学級数や1学級あたりの人数をいいます。

○国が示す学校規模とは

学校規模の標準は、学級数により設定されており、小・中学校ともに「12学級以上18学級以下」が標準とされていますが、この標準は「地域の実態その他により特別の事情があるときはこの限りではない」と示されています。

- 小学校の標準学級数:12学級～18学級 ※各学年2～3学級(目安)【学校教育法施行規則第41条】
- 中学校の標準学級数:12学級～18学級 ※各学年4～6学級(目安)【学校教育法施行規則第79条】

(3) 適正配置

○適正配置とは

適正規模を踏まえ、児童生徒にとって望ましい教育環境を確保するための学校統合や通学条件などをいいます。

○国の標準

公立小・中学校の通学距離について、小学校でおおむね4km以内、中学校ではおおむね6km以内という基準が、公立小・中学校の施設費の国庫負担対象となる学校統合の条件として定められています。

佐用町のスクールバス通学は、町立小学校にあつては、小学校からおおむね3キロメートル以上の距離にある集落の児童、町立中学校にあつては、中学校からおおむね7キロメートル以上の距離にある集落の生徒を対象とする。

(4)学校教育制度等

■小規模校のメリット・デメリット

観点	メリット	デメリット
人間関係	児童生徒同士や教師との関係が密接で安心感がある	人間関係が固定化しやすく、トラブル時の逃げ場が少ない
指導体制	一人ひとりに目が届きやすく、きめ細やかな個別対応がしやすい	教員数が少なく、専門的な指導や教科担任制が難しい
地域とのつながり	地域の拠点としての学校という現状の維持	地域に依存しすぎると、外部との交流が少なくなり、つながりが限定される可能性がある
施設・環境	増加する空き教室を多様な教育活動に有効活用	設備が古い・不足している場合がある
教育機会	少人数での活動が可能	部活動や選択授業の選択肢が限られ、切磋琢磨の機会が減少し、学校行事での保護者の負担が増加する

■学校再編・統合のメリット・デメリット

観点	メリット	デメリット
人間関係	クラス替えが可能となり、多様な友人関係が築ける	新しい環境に適應できない児童生徒もいる
指導体制	教員数が増え、専門性の高い授業が可能になり、複式学級の回避になる	一人ひとりへの対応が難しくなることもある
地域とのつながり	広域的な連携が可能になる	地域シンボルの変化への懸念がある
施設・環境	部活動の選択肢が増え、活気が出る。	通学距離・時間が長くなる可能性のある生徒数が増える
教育機会	切磋琢磨する環境と多様な考えに触れる機会が増える	競争が激しくなり、参加しづらくなる可能性もある

※本資料に示すメリット・デメリットは、文部科学省の資料等を参考に、全国的・一般的な傾向を整理したものであり、佐用町の実情を直接反映したものではありません。